宇治拾遺物語

児のそら寝　―　現代語訳　―

今となっては昔のことだが、延暦寺に児がいた。僧たちが、宵の退屈なときに、「さあ、ぼた餅を作ろう。」と言ったのを、この児は、（自分も食べられると）期待して聞いた。そうかといって、（ぼた餅を）作り上げるのを待って寝ないのも、きっとよくないだろうと思って、（部屋の）片隅に寄って、寝ているふりで、出来上がるのを待ったところ、早くも作り上げた様子で、（僧たちが）騒ぎ合っている。

この児が、（僧たちが）きっと起こしてくれるだろうと（思って）待っていると、僧が、「もしもし。目をお覚ましになってください。」と言うのを、うれしいとは思うけれども、たった一度で返事をしたら、待っていたのかと（僧たちが）思うといけないと思って、もう一声呼ばれて返答しようと、（食べたいのを）我慢して寝ているうちに、（ある僧が）「やあ、お起こし申し上げるな。幼い人は寝込んでしまわれたよ。」と言う声がしたので、ああ、つらいと思って、もう一度起こしてくれよと思いながら寝て聞くと、（僧たちが）むしゃむしゃと、ただ食べに食べる音がしたので、どうしようもなくて、久しくたった後に、「はい。」と返事をしたので、僧たちは、笑うことといったら際限がない。